

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和5年11月1日

事業所名：児童発達支援事業所 赤磐ぐんぐん

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			家族同室型なので大人が多くなると多少狭さも感じるが、活動によってエリアを分けていることによってトラブルなく療育を行っている。 また、余暇エリアを活動によって分けたことで一か所に人が集中することは減っている。	スケジュール調整や職員の配置に工夫して、安全にスペースを確保できるようにしていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○			国の配置基準(児童発達支援管理者1名+職員2名以上)は満たしている。新人育成部門という特色上、他の事業所より配置は多く、職員一人一人に加重がかかりすぎない人員配置になっている。	「誰かがしているはず」とならないよう、今後も事前打ち合わせ時に役割分担を丁寧にしていきたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			エリアの再構造化を職員全体で相談しながら行い、その都度課題を洗い出しながらより良い環境になるよう意識している。	古い建物で増築を繰り返した物件であるため、階段や段差などについてはご不便をかけているのは申し訳ない。今後も色々工夫しながら支援をしていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			古い建物であるが、掃除や消毒は徹底して行って清潔に心地良い空間になるよう努力している。エリアについては活動に合わせて柔軟にセッティングするよう意識している。	経年劣化しているところがあるので、定期的に点検などを行っていきたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			日々の療育記録は児童発達支援管理責任者が確認し、お子さんに合った目標や支援が提供できているのか確認している。 療育前・後でのミーティングで全員が意見を出し合っている。 困難ケースについては職員全体で検討することで一人一人が抱えすぎないようにしている	以前は児童発達支援管理責任者が中心となり問題提起していたが、現在は職員自身からも積極的な意見交換がなされるようになってきている。今後も継続して取り組んでいきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			事業所評価の自己評価・保護者評価ともに一年に一度行っている。皆さん正直に率直に書いてくださっているので、真摯に受け止めながら検討したいと思っている。	いただいたご意見・ご要望は私たちへの応援と期待の思いが込められていると思うので、しっかり参考にしながら、より良い支援に繋がっているよう職員全員で真摯に向き合っていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページ上での公開に加え、事業所にファイリングしたものを設置している。またいただいたご意見を参考に改善した点などがあればLINE配信などでお知らせしている。	ご家族からのご意見に加えて職員同士でも意識を持って支援内容などについてしっかり改善していくための意見交換をしている。今後もお互いに刺激しあいながらチーム支援をしていきたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			第三者機関による外部評価は行っていないが、外部の特別講師(川崎医療福祉大学:諏訪利明先生)によるコンサルを年4回受けており、専門的な幅広い知識を取り入れながら、研磨している。また、外部からの専門家の見学などもご家族にお伝えした上で受け入れている。	自分たちでは気づけない多くの気づきを、外部からご指摘いただけるので、これからも学び続ける姿勢で頑張っていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			児童発達支援管理責任者である松田が主催している隔週の療育スタッフ勉強会で、法人全体の職員のスキルアップを実施している。また、法人の講演会や講座にも無料で参加することができ、新しい知識をインプット・アウトプットする機会は多い。	職員一人一人が自分の年間目標を立てそれぞれ努力している。お互いにリスペクトしあい支え合い研修しあえるチームとして今後も全員でレベルアップしていきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	○			療育開始前にPEP-3やPSI（育児アンケート）などでアセスメントした上で療育スタートしている。また日メインフォーマルアセスメントを行い本人の発達段階・生活年齢・ASDの特性を踏まえた上で支援計画を作成している。	お子さんの課題や環境やご家族のニーズなどを基に計画作成しているが、幼児期ということでお子さん本人のニーズや希望は聞けていない。お子さん自身の自己選択・自己決定の大切さについてご家族と一緒に検討していきたい。
	11	○			PEP-3・CARS/PSI育児アンケートなど標準化されたアセスメントツールを活用している。また、年長のお子さん全員にVineland-II適応行動尺度を実施して現状と課題をご家族と一緒に整理している。	児童発達支援管理責任者の松田がPEP-3の実施・学習スタイルの整理・支援の立案や方針検討を行っているため、今後松田以外の職員も実施できるよう研修機会を多く設定していきたい。
	12	○			発達支援では、本人の発達段階を元に半年間で達成できそうな目標を検討している。家族支援では、相談対応を中心に、本人のASDの学習スタイルに基づいた行動理由を検討しながら家庭で実践可能なアドバイスを行っている。地域支援では、園への般化を意識しながら課題を検討している。	「地域支援」の一環として、今年度も就学時の移行支援＝サポートブック作成のフォローを行っている。卒業生たちのサポートブックをご厚意いただいたので、それらを参考にして作成できるようにしている。焦らず丁寧な移行を応援していきたい。
	13	○			毎回の療育プランを検討する際に、必ず児童発達支援計画を確認しながら、それに基づいた各回のプランを考えて実施している。またご家族にも具体的に説明するよう心掛けている。	計画のどの部分へのアプローチなのか・現状がどれぐらいの進捗状況なのかなど、分かりやすい指標なども活用しながら説明していきたい。特性シートなども法人で統一したので、それらを普段の療育でも見ていただきながらお話するよう心掛けていきたい。
	14	○			担当制ではなく、全体で把握するようになっているため、全員が一人一人のお子さんや家族をサポートするようプログラム立案している。職員全員でその日のスケジュールや活動内容を確認し、個別のサポートや工夫を確認している。	その日の流れは毎日確認しているが、その日の状況で変化もあるので、柔軟な対応ができるよう声かけをしいながら組み立てていきたい。
	15	○			お子さんの発達段階・興味関心・芽生えなどを基に毎回のプランを検討しているため、固定にはならない。また、お子さんのその日の様子によってご家族と相談しながら柔軟にスケジュールや課題を調整しながら実施している。	お子さん一人一人の個別支援計画の目標やねらい・進め方に合わせた活動になるよう計画している。今後も本人の発達を意識しながらプログラム内容を検討していきたい。
	16	○			お子さんの現状や課題に応じてグループ活動や友達と勉強や各余暇エリアの活動を組み合わせて、偏りのないようにバランスの良い活動を心がけている。	目標を達成した場合や、目標として挙げたものよりも優先度・緊急性が高いものが出てきた場合には、ご家族と相談しながら調整が必要な場合は新たな支援計画も作成するよう柔軟に対応していきたい。
	17	○			毎日、療育前には必ず打ち合わせを行い、ご家族と相談する時間をどこで確保するか・誰が遊びの時間にお子さんたちと関わるかなどの担当も事前に打ち合わせしておくことで、スムーズに連携しあって動くことができている。	以前は児童発達支援管理責任者が中心となり打ち合わせを行っていたが、現在は職員同士で司会をし、皆で考え合えるようになっていく。今後も一人ひとりが意識を持ちながら確認していきたい。
	18	○			毎日、療育後には必ず振り返りを行い、ご本人やご家族の言動だけでなく、お子さんの行動の理由や背景・今後の支援の方向性なども相談しあいながら、次回に向けた計画を検討している。	以前は児童発達支援管理責任者が中心となり振り返りを行っていたが、現在は職員同士で司会をし、皆で考え合えるようになっていく。今後も一人ひとりが意識を持ちながら確認していきたい。
19	○			毎回必ず記録を取っており、ご家族とどのような話になったのか、お子さんがどのように行動し、それに対して職員がどのように関わったのかなども記載することで、つぎの療育で別の職員が関わった際にも継続した関わりができるようにしている。記録は児童発達支援管理責任者が毎回必ず目を通し適切な療育が行えるようにしている。	事実なのか想像なのか、職員自身の考えなのかご家族とも共有した上での記載のかなど、具体的に書き込むことで「一目瞭然」になるような記録を心がけている。その日中に必ず記録と次回の計画まで作成するようになっていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			個別支援計画は、6ヶ月ごとにモニタリングを行っている。モニタリングの際には、Word文書で約5ページほどのまとめを作成し、ご家族にお渡しする前に職員全員で回覧をした上でお渡しするようにしている。また、計画の際には次にどのような目標を選定していくと良いかなどを検討している。	個別支援計画は、「ご家族とぐんぐんの間での契約」という意識を職員全員が持ち、利用回数を確認しながら日々の計画を立てている。その中で優先順位や緊急度によって見直しもしている。今後もしっかり意識して取り組んでいきたい。
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			担当者会議に児童発達支援管理責任者が代表として参加し、そこでの話し合いの内容を伝達するようにしている。	平日の昼間に行われることが多いため、児童発達支援管理責任者が参加しているが、必要な場合は他の職員でも参画できるようにしていきたい。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			行政（社会福祉課や母子保健課）や児童相談所などとも連携し、個別のケースについて連携した支援を行っている。また相談支援事業所とも積極的に交流しあい、情報共有を行っている。	平日の昼間に行われることが多いため、児童発達支援管理責任者が会議への参加や連携には携わっているが、必要な場合は他の職員でも参画できるようにしていきたい。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在、医療的ケアが必要なお子さんや重症心身障害のあるお子さんの利用がないため行っていない。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケアが必要なお子さんや重症心身障害のあるお子さんの利用がないため行っていない。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			全ての利用児の園に対して、ご家族の理解を得た上で、情報共有シートをこちらから郵送し、電話にて確認している。また、半年ごとのモニタリングの際にも文書にて療育で行っている支援や方略を共有している。園からご家族を通しての相談やケース会議にも応じている。	社会でもWithコロナの体制が整ってきているので、今後は見学受け入れなどもご家族の許可が得られた場合受けていきたいと考えている。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			移行支援としては、サポートブック作成をご家族と共に行うことで、スムーズな移行のサポートをしている。またご希望がある場合には学校へも情報提供している。	サポートブックについては、作成のポイントや例を色々紹介して多角的な視点でアドバイスしている。ご家族からの希望があれば、必要に応じて学校とのケース会議などにも参加していきたい。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			同じ市内の児童発達支援事業所や児童発達支援センターとの交流会に、職員全員で参加し、情報共有や課題などを確認しあっている。	職員全員で参加することによって、今後も刺激し合えると良いと考える。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			○	お子さんとご家族の個人情報保護の観点から行っていない。	
	29 (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			自立支援協議会に参画している。また、療育研修会に児童発達支援管理責任者が参加し、そこで得た情報などは積極的に職員にシェアして普段の支援に活かせるようにしている。	平日の昼間に行われることが多いため、児童発達支援管理責任者が参加しているが、必要な場合は他の職員でも参画できるようにしていきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			家族同室型のため、ご家族とライブでお子さんの様子や課題を確認し合いながら支援を組み立てている。お子さんの行動理由をASDの学習スタイルのどのあたりが影響しているかを考え、普段の家庭生活や今後の学校生活などにどのように繋がるかも提案していけたらと考えている。	LINEや連絡帳でのやりとりは便利である反面、たくさんの情報が負担になるなどの声もあったため、療育中にお話しできないか・メモで対応できないかなども検討していきたい。
	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○			保護者座談会を年間を通して定期的実施し、そこでの家族支援と共に、ピアカウンセリングを行っている。また、ご家庭での取り組みについて提案したり、取り組みの内容や療育内でモデルを見せるなどして、ご家庭で活用できるアイデアを丁寧にサポートするようにしている。	希望が多いようなので、今後法人での実施を検討していきたい。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			療育開始前のPEP-3の際、検査者とは別に説明者を一人つけて、丁寧に説明するようにしている。口頭だけでなく補足説明のために写真やイラストを活用し、必要に応じて写真を撮っていたりしている。また、重要事項説明書・契約書は、ご自宅用の一部お渡ししている。いつでも質問などあれば受け付けるようにしている。	相談支援加算や欠席時加算などについても、丁寧に説明した上で請求を行うようにしている。またお休みの場合には振り替え提案なども積極的に行っている。
	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			「家族の希望調査表」に記入していただき、引率されているご家族以外の希望も踏まえた上で、面談を行いながら、ご家族と現状・課題を確認した上で無理のない計画になるよう心掛けている。また、療育場面での取り組みだけでなく、ご家庭での取り組みも考えていただいている。	お子さん本人のニーズを取り入れることはできていないので、今後は自己選択・自己決定の意識を持ちながら支援にあたっていきたい。
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			相談用紙を活用して聞き取りを行った上で、ASDの特性を踏まえたアドバイスをを行うようにしている。現在の状況だけでなく、今このことを教えることが本人の将来にどのような影響を与えるのかを家族と一緒に考えることを大切にしている。	氷山モデルやASDの学習スタイルシートなどを活用しながら話すことで、一つの相談だけでなく、他の場面にも生かせるようなアイデアや提案をできるように心掛けている。今後も取り組んでいきたい。
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者座談会を実施している。また、運営母体が親の会であるため、情報をこまめに提供している。また、グループ活動などを行った後でご家族と一緒に振り返りの時間を取り、色々と情報交換できる機会を持てるようにしている。	父母の会としての活動は行っていないが、当法人が親の会としての役割を持っているので、案内を続けていきたい。
36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			家族からの思いや考えを丁寧に聞き取り、こちらの落ち度に対してはすぐに謝罪をした上ですぐに対応を徹底・周知している。また、必要な場合には利用児全体にも周知するようにしている。	相談や申し入れについては、迅速に対応するとともに、こちらの支援のまずさを繰り返さないようにヒヤリハットなどにも記載し再発防止に努めている。
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			職員ブログにて療育での様子や職員の思いなどを積極的に発信している。また、当法人の活動や勉強会やセミナーの紹介やホームページやチラシなどでお知らせしている。	職員ブログの更新が忙しい時期には滞っていることがあるので、もう少しラフにアップできるようにしていきたい。
38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			お子さんの名前やファイルなどが他の時間に出ないように注意したり名札やスケジュールが出ていないかをチェックリストで確認するようにしている。また繊細なお話については他の利用者の方に聞こえない場で伺うようにしている。	ダブルチェック・トリプルチェックをするようにしているが、まだ甘い部分もあるので、もっと気をつけていきたい。
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			口頭だけでのやりとりにならないよう、本人の発達段階や理解に合わせたコミュニケーションツールを活用している。またご家族に対しても口頭だけでなく、希望される場合にはLINEをしたりメモをコピーしてお渡ししたりしている。	ご家族とお話するときには相互やりとりになるよう意識していき、必要に応じて視覚的なものを活用している。また、お子さんとのやりとりについても、本人の理解レベルを意識した声かけや視覚的指示を活用していくようにしていきたい。

保護者への説明責任等

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を回っている		○		お子さんやご家族の個人情報保護の観点・毎日の通所する場ではないことなどから、地域住民を招待するような活動は行っていないが、運営母体である育てる会の行事として、地域の方や利用者の方が参加できるイベントを行っている。	
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、掲示している。県からの指導で毎日の通所する場所でないこと・家族同室のためお子さん本人への訓練は必要ないとのことであったため、ご家族に対して避難経路や避難場所について説明を行っている。また職員間での訓練を行っている。	書面だけでは分かりづらいと思われる部分については、避難経路を目視していただくなども工夫していきたい。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			地域のハザードマップを基にどのような災害が事業所の周辺で起きるかを確認した。また職員間での訓練を行っている。	書面だけでは分かりづらいと思われる部分については、避難経路を目視していただくなども工夫していきたい。
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			年度初めに利用者ファイルにて健康上の配慮点や服薬などの確認を行い、構造化シートに記載するなどして周知している。また、家族同室であるため、必要に応じてご家族に確認している。	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		年度初めに利用者ファイルにて食べ物アレルギーの確認を行い、構造化シートに記載するなどして周知している。療育が短時間であるため、現在おやつのは活動は中止している。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリとしたことが起きた場合や想定される場合には報告書を記入し、職員間で共通認識を図り再発防止を予防するようにしている。また、事故などだけでなく、こちらの関わりのまずさや本人の混乱に繋がったようなケースも含めて「ヒヤリハット」とし、全員で確認しあうようにしている。	ヒヤリハットを0にしようとする報告を臆するようになる危険があるので、事故にならなかったことをしっかりシェアしあう風土を作っている。今後もチームで意識しあいたい。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待研修の伝達を職員全員で受け、虐待にあたるケースの確認や虐待を発見した際の対応について共通理解を図っている。虐待を疑われるケースに関しては必ず記録を残し職員全員に周知した上で、行政や通所している保育所や児童相談所などに報告するなど、お子さんの命と心を守るための必要な対応をしている。	事業所としての虐待はないが、家庭内でのことをご家族から虐待リスク事案を報告されることがある。ご家族の孤立感や疲労感などに配慮して、事業所としてできることを取りくんでいきたい。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		運営規程や重要事項説明書には身体拘束についての記載を行っており、必要なケースが発生すれば個別支援計画に記載し、緊急時のやむを得ない場合にのみ行うこととしているが、身体拘束等の適正化に関する指針として、当法人の事業所では原則身体拘束を行わないこととしている。また、現在対象となる子どもがいない。	

非常時等の対応

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。